

成果の説明書

(氏名) 佐藤敏久	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項 (演習において)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「Student Innovation College (Sカレ) への出場。それに伴う参加5チームへの1年間の指導(3年生)」 全国29大学、経営・マーケティング分野33ゼミが、実際の商品開発案と、市場化について競い合う大会に1年間のすべてのゼミ活動の時間をかけて参加した。ゼミからは5チームが別々のテーマで参加した。製品化してくださる企業の方々を前に具体的な製品の試作品を提示しながら、プレゼンを行った。ゼミ生はチームで一つのを話し合いながら作り上げていくということ、全国の様々な大学と競い合うことによって、自分たちの力を試すということ、さらに、実際に市場化することの大変さについて、貴重な経験を得たと思う。この大会への参加について、教員として、ゼミの時間だけではなく、夏休みや授業以外の時間のほとんどを使用した。</li><li>・「富士通(株)知財を用いた商品開発の大会参加(4年生と3年生)」 富士通の使用可能な特許技術を使用して、大学生が自らのアイデアを、自治体、地元の企業と共同して商品化実現を目指そうという大会である。学生自らが交渉し企業からアドバイスなどをもらいながら、最終的に富士通にプレゼンしていくものである。ゼミの企画案も高い評価を得ることができた。</li><li>・「高崎 King of Pasta への参加(2, 3, 4年生)」 地域への大学生への参画として、高崎の名物であるパスタ料理を広く外部に広めようとするもので、ゼミ生が地元の参加企業とのメニュー案や企画段階から参加した。このような催しものへの参加はなかなかできるものではなく、ボランティア参加も含めて実りあるものであった。</li></ul> <p>・『経営診断学の理論と技法』 共著 日本経営診断学会編、2015年、同友館(「サプライチェーンとロジスティクスマネジメント」執筆担当)</p>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1期生卒業につき、演習室全員参加の「卒論発表会」を開催</li><li>・サンデン(株)高校生ビジネススクール講師</li><li>・産経新聞にインタビュー記事掲載</li></ul>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負 (ゼミ活動)</p> <p>2015年度は、3つの活動を行ったが、さらに参加したほうがよいのではないかと考えているので、学生と話し合いながら参加するものを選定したい。</p> <p>(個人研究)</p> <p>組織間ネットワーク形成に関する研究</p> <p>研究論文作成のため、昨年度から行っている実務家へのインタビューを本年も行った。「現場」で陣頭指揮をとっている方々にインタビューしながら、先行研究のサーベイと合わせ、仮説を練り上げる作業を繰り返している。質問紙調査も行うための準備をしているし、事例研究も行う予定である。この研究と並行して、消費者間のつながりと行動とマーケティング・コミュニケーションをテーマとした研究も鋭意進めたい。</p>	